



2026年5月15日

各位

会社名 スカイマーク株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 本橋 学
(コード番号：9204 東証グロース)
問合せ先 執行役員・IR室長 田上 馨
(TEL. 03-6853-7222)

**営業外収益（為替差益）、特別利益（固定資産売却益）、法人税等調整額（損）の計上及び
2026年3月期業績予想値と実績値との差異ならびに配当予想の修正に関するお知らせ**

当社は、2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）におきまして、営業外収益（為替差益）、特別利益（固定資産売却益）及び法人税等調整額（損）を計上いたしました。また、2025年11月13日に公表いたしました2026年3月期の業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じました。これらの結果を踏まえ、未定としておりました配当予想を修正することといたしましたので、以下の通りお知らせいたします。

記

1. 営業外収益（為替差益）の計上

為替相場の変動により、当第4四半期会計期間（2026年1月1日～2026年3月31日）において、427百万円の為替差益を計上いたしました。これは主に、当社が保有する外貨建資産負債を、当期末時点の為替レートにて評価替えを行ったことにより生じたものです。なお、2026年3月期第3四半期累計期間において為替差益910百万円を計上していたため、2026年3月期事業年度における為替差益は1,338百万円となりました。

2. 特別利益（固定資産売却益）の計上

当社が保有する固定資産である航空機エンジンを売却し、固定資産売却益となる712百万円を計上したことによるものです。

3. 法人税等調整額（損）の計上

2027年3月期以降の事業計画について、昨今の原油価格の高騰や当社の機材計画等を考慮した上で、今後の業績推移等を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性を慎重に見直しました。その結果、繰延税金資産を取り崩したことに伴い、法人税等調整額（損）1,949百万円を計上いたしました。

4. 業績予想値と実績値の差異

(1) 2026年3月期 業績予想値と実績値との差異 (2025年4月1日～2026年3月31日)

| | 事業収益 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------------------------|----------------|--------------|--------------|------------|----------------|
| 前回発表予想 (A) (2025年11月13日発表) | 百万円 111,000 | 百万円 1,600 | 百万円 1,000 | 百万円 100 | 円 銭 1.66 |
| 今回実績値 (B) | 110,441 | 1,801 | 2,907 | 1,638 | 27.21 |
| 増減額 (B-A) | △558 | 201 | 1,907 | 1,538 | — |
| 増減率 (%) | △0.5 | 12.6 | 190.7 | — | — |
| (参考) 前期実績 (2025年3月期) | 108,893 | 1,826 | 760 | 2,146 | 36.14 |

(2) 差異の理由

事業収益においては、堅調なノンビジネス需要を背景に、収益の最大化を目指した戦略的な単価設定を実施いたしました。一方で、国内線航空各社によるプロモーション強化により価格競争は激しさを増し、有償旅客数が想定に届かず、事業収益は期初想定を下回る水準で推移いたしました。このような事業環境の変化を受け、第3四半期以降は状況に応じた柔軟な対応により単価設定と有償旅客数のバランスを重視したレベニューマネジメントの深化に努め、事業収益は概ね想定通りの水準まで改善いたしました。

営業費用は前年比でインフレの影響や政府支援の縮小、人的投資強化等により増加いたしました。このような環境下においても、安全運航に係る費用の確保を大前提とした上で、オペレーション業務の見直しや新機材導入が進捗する中での整備計画の最適化に伴う整備費の低減など、自助努力による費用抑制や厳格なコスト管理に取り組み、営業利益は想定を上回りました。

経常利益においては、営業外収益（為替差益）の計上により想定を上回りました。当期純利益については、主に特別利益（固定資産売却益）の計上により、想定を大幅に上振れる結果となりました。

5. 配当予想の修正

(1) 2026年3月期 配当予想の修正の内容

| | 1株当たり配当金 (円) | | |
|--------------------|--------------|-------|-------|
| | 第2四半期末 | 期 末 | 合 計 |
| 前回発表予想 | | - | - |
| 今回修正予想 | | 7円00銭 | 7円00銭 |
| 当期実績 | 0円00銭 | | |
| 前期実績 (2025年3月期) | 0円00銭 | 3円00銭 | 3円00銭 |

(2) 配当予想修正の理由

当社を取り巻く事業環境は、各種の物価高騰などに加え、足元では中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の高騰や急激な為替変動により、極めて先行きが不透明な状況にあります。こうした外部環境のリスクを考慮した上で、株主還元を継続を基本としつつも、不測の事態に備えた内部留保の充実と、将来成長に向けた投資資金を確保すべき局面であると判断いたしました。

2026年3月期の業績におきましては、急激な円安進行に伴い多額の為替差益を計上したことにより、配当

原資は非資金性の要因を多く含むこととなりました。前述した事業環境の急激な変化や新機材導入が本格化する資金需要等を総合的に勘案し、株主還元とのバランスを慎重に検討した結果、2026年3月期の期末配当を7円といたしました。

また、従来より公表しておりました配当方針につきましては、外部環境の変動が激しい中でも、安定的かつ継続した配当の実現に向けて、株主還元方針を変更することといたしました。新たな方針は2027年3月期の配当より適用すべく検討を進めており、決定次第速やかにお知らせいたします。

今後とも、長期的視点による財務体質の強化と成長投資を行う一方で、安定的かつ継続して利益還元を強化し、企業価値の向上に努めてまいります。

以 上